

八代港における国際旅客船拠点形成計画書について

【国際的なクルーズ船の寄港拠点の形成に向けて】

1 背景

- ・東アジアにおけるクルーズ市場が急速に拡大し、日本の港湾への寄港需要が急増
 - ・係留施設の確保が困難となり、安定的なクルーズ船寄港が維持できないおそれ
 - ・クルーズ船社は、係留施設の優先利用を希望する一方で、自ら寄港地に投資して受入環境の向上を図る意向を示す
- ⇒ 国は、こうした背景を踏まえ、クルーズ拠点形成を図るための新たなスキームを検討
 ⇒ 昨年12月、県は、この国の動きに対応し、ロイヤルカリビアン・クルーズ社(以下「RCL」という。)と連携し、八代港にクルーズ拠点を形成するための計画書(目論見)を国に提出
 ⇒ 本年1月、国により八代港が官民連携による国際クルーズ拠点を形成する港湾に選定

2 港湾法改正による国際旅客船拠点形成のための新たなスキームの創設

(公共)係留施設等受入環境の整備

(法施行日:平成29年7月8日)

(民間)旅客施設等への投資 ⇒ 係留施設の優先的な使用权を取得

3 国際旅客船拠点形成までの流れ

- 拠点の形成を図る港湾を国が指定
- ※H29.7.26 八代港を含む6港を国際旅客船拠点形成港湾に指定
- ⇒ 港湾管理者が**拠点形成のための計画**を作成
- ⇒ 港湾管理者が(旅客施設等に投資を行う)民間事業者と協定を締結
- ⇒ 協定に基づき、施設整備・運用等を行い、拠点を形成



H29.7.26 指定書交付式

【八代港における国際旅客船拠点形成計画書の概要】

1 国際旅客船拠点形成に係る取組方針

(1)クルーズ船受入の現状及び課題

- ・現在八代港では、貨物埠頭で最大16万トン級までのクルーズ船を受け入れ中。
- ・夜間入出港にも対応し、平成28年のクルーズ船寄港実績は、国内・海外を合わせ12隻。
- ・貨客兼用の運用のため、増大する大型クルーズ船の寄港需要には十分に対応できない。

(2)拠点形成の基本方針

国及びロイヤルカリビアン・クルーズ社(以下「RCL」という。)等と連携した施設整備と地元である八代市等と連携した観光・物産に関するプロモーション等により、多くのクルーズ船寄港と観光客によるにぎわいを創出し、八代港を世界に誇る魅力的なクルーズ拠点としていく。

(3)拠点形成区域

- ・八代港外港地区の南西部分の角地
- ・約16ha



(2)プロモーション等(ソフト事業)

- ・アンケート調査の結果等を活用した、これまで以上に熊本の魅力を満喫できる本県独自の寄港地ツアーの提案
- (例)観光列車とのタイアップ、寄港地から直接乗船するイルカウォッチング等
- ・地元八代市を含む県南15市町村における観光連携事業やおもてなし
- (例)多言語パンフレットやPR動画の作成、歓迎セレモニー、シャトルバス運行等

3 係留施設(岸壁)の優先的な利用

岸壁及び旅客ターミナル施設が供用された場合、RCLは他のクルーズ船社に先立って、岸壁の利用予約が可能。

- ・優先利用の期間:40年間
- ・優先利用可能日数:年間150日
- ・RCLは、利用予定年の前々年の7~12月に優先的に予約。
- 利用予定年の前年1月以降の予約については、RCLと他の船社を平等に取り扱う。

年	N年												(N+1)年												(N+2)年											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	優先予約受付期間																								予約対象期間											

2 拠点形成に向けて取り組む事業(国際旅客船取扱埠頭機能高度化事業等)

(1)施設整備(ハード事業)

世界最大級(22万トン級)のクルーズ船及びその乗客に対応可能な施設を次のとおり整備。

整備主体	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度以降
県	旅客受入れに必要な大型バス駐車場等			拠点供用開始
国	22万t級対応クルーズ船専用岸壁・泊地			
RCL等	旅客ターミナル施設			集客施設(一部はH31年度までに完成)
	集客施設(一部はH31年度までに完成)			



世界最大級(22万トン級)のクルーズ船

※集客施設については、クルーズ船乗客のみならず、一般の観光客を広く受け入れる施設とし、クルーズ拠点が県内外はもとより国外から数多くの観光客が集まる魅力的な場所となるよう整備していく。

4 目標

〈目標とする国際クルーズ拠点の姿〉

“アジアに開くゲートウェイとしての「九州中央の大型クルーズ船の受入拠点」”
 県内各地に点在する魅力的な観光地を最大限に活用し、大型クルーズ船寄港のファーストチョイスとなる港を目指していく。

〈クルーズ船寄港回数(目標値)〉

平成32年(運営開始年):100回
 運営開始から10年以内:200回

